を繼續する等極力切崩に奔走したる處爭議團員中日本石炭坑夫組合の指導に不滿を有する從業員數名は會社の懷柔に應じ爭議團の切崩を計劃し二日夜在飯塚市九州鑛山坑夫組合に應援を依頼したる偽同組合幹部は別途爭議團を結成すべく準備する一方三日夜平山炭坑爭議解決促進演說會を開催せんとして玆に兩組合の對立となり急激に本爭議を惡化せしめんとする狀勢に立至つたのである。

十四、解決狀況

かくて會社側は勿論、所轄警察署に在りても將來を憂慮し九州鑛山坑夫組合に對し諭示警告を發し自重を促したる處同組合は本爭議より手を引きたる結果三日午後三時半勞資第三回の會見をなすに至つたのであるが双方の主張異り容易に解決せず決裂せんとしたるが所轄飯塚署の斡旋にて漸く午後十時

財團法人 協調會福岡出張所